



カケハシ・プロジェクト派遣プログラムの記録

対象：アメリカボウル（米国）

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国へ日本の高校生および引率者計 4 名が派遣され、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2018 年 8 月 15 日～8 月 22 日の日程でプログラムを実施しました。

一行は、学校交流で日本の魅力紹介プレゼンテーション及び実演を行い、視察先では米国や日米両国の関係について理解を深めました。プログラム中、各々の関心事項や体験について SNS を通じて積極的に对外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪米経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加団体・人数】

開成高等学校 4 名

【訪問地】

ワシントンD.C.

2. 日程

8/15（水）	【到着】 【視察】 合衆国海兵隊記念碑、リンカーン記念堂、第二次世界大戦記念碑、トーマス・ジェファーソン記念堂、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア記念碑 【オリエンテーション】
8/16（木）	【学校交流】 Hayfield Secondary School, Thomas Jefferson High School 【視察】 アメリカ合衆国議会議事堂
8/17（金）	【表敬訪問】 在アメリカ合衆国日本国大使館 【交流】 経団連米国事務所、ワシントン日本商工会 【歓迎会】 ワシントンDC日米協会
8/18（土）	【視察・交流】 国立アメリカ歴史博物館、国立航空宇宙博物館/国立美術館（現地高校生と見学） 【学校訪問】 ジョージタウン大学
8/19（日）	【視察】 クライストチャーチ 【ワークショップ】
8/20（月）	【報告会】 【歓送会】 【講義】 日系アメリカ人収容体験講話 【視察】 全米日系米国人記念碑 【交流会】 マロット日米協会ワシントンDC元理事長
8/21（火）	【出発】
8/22（水）	【帰国】

3. プログラム記録写真



8/16 【学校交流】 Thomas Jefferson High School



8/17 【表敬訪問】在アメリカ合衆国日本国大使館



8/17 【視察】経団連米国事務所・ワシントン日本商工会 ラウンドテーブル



8/18 【視察・交流】国立アメリカ歴史博物館、国立航空宇宙博物館/国立美術館（現地高校生と見学）



8/20 【報告会】



8/20 【交流会】マロット日米協会ワシントン DC 元理事長

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ どうすれば日本とアメリカの「架け橋」になることができるのか、について考えさせられた一週間でした。もちろん「架け橋」になるにはアメリカについての理解を深めるだけでなく、自国の日本について発信することが必要です。しかし、今回の米国訪問では、自分がどれだけ日本について無知であるかについて気付かされることが多々あり

ました。教会で日本の宗教について聞かれたときや、日系アメリカ人の方に第二次世界大戦時の差別体験の話を伺った時には、自国に対する歴史認識の甘さを痛感しました。日本について発信するという行為には、積極的に外国人に伝えようとする意志も大事ですが、それと同時に日本を客観的に捉える視点も必要であると強く感じました。そして、そのような視点は自分自身が実際に外国に身を置いて生活することで初めて身に付くということを今回の訪問で気づかされた気がします。今回のプログラムを通じ、アメリカだけでなく日本についても新しい観点で捉えなおすことができました。外国人の視点を理解しつつ、日本について発信していけるような本当の「架け橋」に向かってこれからも頑張っていきたいと思います。

◆ 日本に興味をもっているアメリカの高校生と交流ができて楽しかったです。普段日本で話す機会のない同世代のアメリカ人と博物館を一緒に回るなど、非常に貴重な体験ができて良かったです。また、経団連では、有名企業の皆さんから様々な話を聞くことができ、将来自分が進路を決める時や、キャリアなどに非常に役立つと思いました。非常に充実したプログラムで、自分が興味のある歴史に関する施設や博物館を訪れることができ嬉しかったです。

◆ 中学、高校の課程の中で、日本語を学ぶコースが多くの学校に存在していることが分かりました。特に、図書室内に日本のマンガコーナーがあったことには大変驚きました。お店のレジの人が色々話しかけてくれましたが、日本ではあまりないことなので、その違いは、日本人はシャイな人が多いことが理由かなと感じました。経団連では、英語があまり上手ではなく、苦労している人の話を聞けた一方、外務省を辞めて商社に勤務しワシントンDCに駐在している人もいたため、大変興味深かったです。政府と民間の違いを知ることができました。また、日米学生会議のメンバーと話をできたことがとても楽しく、彼らが考えていることなどを共有して、意見を言える機会がありました。日本のことを考えるという意味では大変貴重な経験となりました。

5. 受入れ側の感想

◆ 学校交流参加学生

日本とアメリカの歴史について日本語と英語で話し合いができたことが特に楽しかったです。また、日本人が世界で起こっている出来事についてどんな意見を持っているか聞くことができたことも良かったです。一緒に買い物したことや日々の生活のことを話したこともとても楽しい思い出です。今回の交流を通じて、友情には言葉の壁は関係ないと再認識しました。これからもずっとこの友情を大切にしていきたいと思います。

◆ 学校交流参加学生

今回このプログラムに参加できてとても良かったです。この交流を通じて、学力だけでなく、英語やアメリカについて理解ある日本の学生に出会うことができました。文化や言語、歴史など、様々なトピックで話し合いを行い、お互いの文化をもっと深く理解することができました。

6. 参加者の対外発信

The Ministry of Foreign Affairs of Japan conducts something very interesting called KAKEHASHI Project, Japan's Friendship Ties Program, which sends about 1100 people to or from Japan each year. I actually went to Washington D.C. as part of this project!! 翻訳を見る 	【KAKEHASHI project】 vol.2 On the fifth day, we visited Christ Church, an Anglican church in Alexandria, Virginia. (I'm not a Christian, I went there as a visitor) There, I had a chance to ask about the separation of church and state in the us, and we could f... もっと見る 翻訳を見る 
プログラムについての発信 (Facebook) 外務省は対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」という、約 1100 名を日本に招へいもしくは日本から派遣する交流プログラムを行っています。私はこのプログラムの下、ワシントン DC を訪問しました。	5 日目のプログラムについての発信 (Facebook) 5 日目にクライストチャーチというヴァージニア州アレキサンドリアにある英国国教会を訪れました。(中略) 日本では神様についてどのように考えているでしょう。日本ではクリスマス进行、大みそかにはお寺の鐘を聞き、翌日には神社を参拝します。日本人は宗教の多様性に関して寛容的であると言え、言い換えるならば、宗教に対して無関心であると言えるでしょう。この日自分の国についての無知を切実に感じました。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表


アクション・プランの発表 ①街中の観光地で、道に迷っている海外からの観光客がいれば、積極的に声をかけ道案内を行う。そして、道案内だけでなく、日本の文化や社会について話をすることで、日本について知ってもらうきっかけとする。帰国後も海外の人とのコミュニケーションを継続する。 ②カケハシ・プロジェクトのような対日理解促進交流プログラムについて、より多くの日本人に知ってもらうため、今回の訪問についての報告会を行う。具体的には毎年 10 月に高校で開かれる夏の留学の報告会に参加し、海外留学などに興味のある生徒向けにプログラムの魅力を発信する。